

ワークセンターのっぺ 就労を目指し自立と共生の支援 喫茶店併設で接客も

障害者の自立と地域との共生を目指してこのほど、障害福祉サービス事業所「ワークセンターのっぺ」（阿部知子施設長）が長岡市三ツ郷屋町

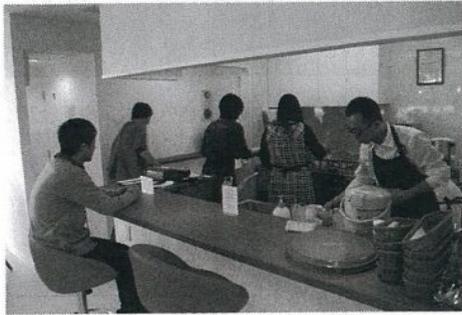
に開所した。同事業所には喫茶店も併設された。ゴールデンウィーク明けの10日から本格的な営業が始まり、通所者らによるサービスが提供されて

衣類やタオルの畳み作業を受託

同事業所は、市内で病院や介護施設などを展開している医療法人崇徳会が運営する。これまでは、同地区内の越路ハイム地域生活支援センター内で、受託作業を行っていた。就労希望者の増加を受けて、今年4月に福祉就労事業所として同事業所を新設したもの。一般事業所での就労は困難だが、労働意欲があり障害を抱えている人への訓練や適性を考慮した職場探し、就労後の定着支援などを行っていく。同法人では「働く施設とすることで、就職支援に力を入れたい」としている。同センター内での衣

長岡新聞 5月21日号に
ワークセンターのっぺ様が
掲載されました。

（設計：高田建築設計事務所）

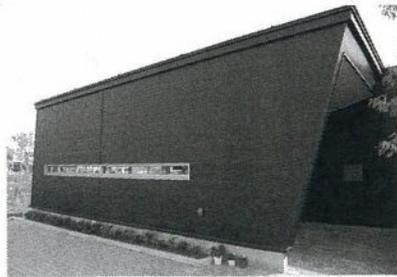


喫茶店への来店者に
料理を提供するスタッフら

喫茶店「NOPPE
ICAFFE」

類やタオルの畳み作業、チラシ折りといった受託事業を同事業所では引き継ぐとともに、新たに喫茶、印刷といった分野も手掛ける。現在36人が登録しており、1日最大で20人が働くことができる。作業は希望に応じた種類を選択することとし、1日あたり平均17人が来所している。

一般事業所での就職を目指すために、地域と交流する中で接客技術などを磨きやすい喫茶店を併設した。喫茶店は「NOPPE ICAFFE」のっぺいカフェである。同カフェは白を基調にしたつくりで、飲み物や軽食を提供する。調理するのは同事業所のスタッフだが、接客や盛り付けなどは利用者が行う。市内の同様の施設で、軽食を提供する例はほとんどないという。本格営業前の試験営業で、接客の練習に取り組み本番へ備えてきた。4月下旬から、飲み物やデザートを提供を開始し、グランドオープン後は日替わりランチなどを提供している。最終的には、崇徳会が運営するほかの作業所つくるハン



障害福祉サービス事業所「ワークセンターのっぺ」外観

張つていきたい」と意気込んでいる。

また、同事業所では、登録者の職場探しや就業後の支援もしている。阿部施設長は「新しい場所での活動で、利用者もやる気を高めている。できたばかりで、まだ今後の展開など決まっていな部分も多いが、利用者が生き生きと働ける場としていきたい」と話していた。

していきたいとする。同カフェで、ウェイターや調理の手伝いなどをやる男性は「オープンから着実に、お客さまが増えてきてとてもうれしい。張り合いのある仕事なので、これからも頑張りたい」と話していた。